

変化しながら受け継ぐ

静岡市内中学校

西ヶ谷さん

「これが未来の服なのか。」

家族で訪れた大阪・関西万博で私は思わず眩きました。パビリオンには各国の歴史、文化、そしてこれから私たちが作っていく未来が紹介されていました。ＩＣチップを使った服が当たり前になったら、病気を未然に防ぐことや、自分で気づかない体調の変化もいち早く分かるかもしれない。表裏や前後をなくして衣服のバリアフリーが実現した服がこれからたくさん流通していくかもしれない。便利で快適、そしてスマートな暮らしに合わせてファッションも変化していくのかな。私はこれからの未来の生活を想像しました。

現在私たちの身の回りには、トレンドを取り入れた低価格の洋服を、迅速に大量生産し、短いサイクルで販売するブランドが多くあり、私たちは気軽にファッションを楽しむことができます。しかしそのスピードや価格の裏側には、労働問題や環境問題が隠れています。ファストファッションが引き起こす環境問題には、水とエネルギーの大量消費、水質汚染、処理しきれない廃棄物などが挙げられます。服を作る

ためにどれくらい環境負荷がかかっているのかを調べたら、一着あたり二酸化炭素の排出量約二五・五キロ、水消費量約二三〇リットルであることを知りました。

トレンドはすぐに変化をしていくので、大量のエネルギーを使って作られた服も、すぐに捨てられてしまうことや、売られることなく廃棄されてしまうこともあります。服のライフサイクルが短くなることで、今度は廃棄するためにも環境負荷が生じます。日本国内でゴミに出される衣服は年間四七万トンで、一日あたりにすると大型トラック一二〇台分の服が焼却・埋め立てられているのです。

ファッションが引き起こす環境問題に私たちができることはないか考えていた時、とても面白い出来事がありました。

近所に住むお年寄りが私の家を訪ね、

「これ、あなたたち家族じゃないかしら。」

見せられたのは母が子どもだった頃の家族写真でした。今まで渡されることなくしまわれていたものが、家の整理で出てきて、届けてくれたのです。小さな母、今と全然違う大人の髪型やファッション、古めかしいベビーカー。写真を囲んで大笑いをしながら、

「あの時はみんなこんな髪型をしていたよね。これが最先端だった。」と盛り上がる中、

「ちょっと待って。」

母がスマホから写真を探すと、私が二歳の時の写真が出てきました。そこには、今みんなで笑った古い写真で、母が着ていた子供服を、私が着て公園で遊んでいたのです。

なぜそのようなことが起こったかというと、それは、私の家の「おさがり」という習慣にあります。私の家では、古いものでも大切にוותておいて、受け継いで今も使ったり、着たりする習慣があります。私が使っているピアノは、祖母が子どもだった頃に買ってもらったもので、祖母だけでなく母が使い、お嫁入りと一緒にピアノも引っ越しをしたのです。

今私がとても楽しみにしているのは、祖母の家に大切にしまっている成人式の振袖を着ることです。そのことを美容師さんに話をしたら、振袖があることが幸せだということ。そして着物は自分らしく着ることで生まれ変わるということを教えてくれました。同じ着物でも髪型のアレンジの仕方、髪飾り、帯紐、帯の結び方を変えることで、伝統を受け継ぎながら、現代でも十分にその良さを活かすことができる。ということでした。私はどんな風に成人の日を迎えるのだろう。今はまだわからない楽しみがあります。そしてこの着物をいっただいづつで受け継ぐことができるのだろう。そう思うと、長い家族の歴史の中

に私自身の存在もしっかりと刻まれていくように思いました。

私の家の「おさがり」の習慣はちょっと古く、そしてたくさん思いついたつまっています。服を大切に長く着ることや、直して着る、付け加えて着ることで、衣服の寿命がのびます。また廃棄するものが減ったり、買い替えるペースが減ることで、環境への影響を軽減できます。家庭以外でも、自治体などによる服のリサイクルやリユースへの取り組みもあります。持続可能な社会に向けた古くても新しいライフスタイルなのかもしれません。

私はこの夏、万博に行って少し先の未来を見た気持ちになりました。そして未来はキラキラしていて、可能性で溢れていることを教えてもらいました。私が大人になるまでの間に、ファッションのトレンドは変化を続けていくのだと思います。今までのものと、これからの自分を大切に、自分らしく繋いでいく、それが私の考える未来へのチェンジファッションです。